

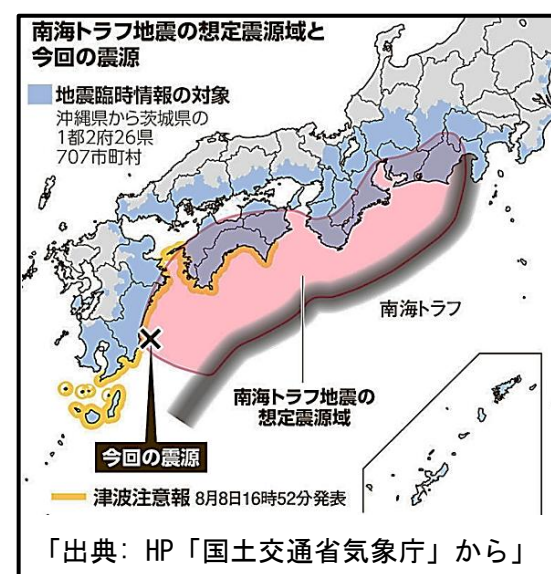
「南海トラフ地震臨時情報」が発表されました!

8月8日に宮崎県沖の日向灘で発生したM7.1の地震を受けて発表された南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の「注意期間」が15日で終了しました。

巨大地震への不安が広がる中、命を守るためにどう備えるべきなのか。自治体や住民が課題に直面する中、この1週間で得られた教訓をどう生かすかが問われています。

今日や明日ではなくとも、近いうちに必ずやってくる南海トラフ地震。この地震がひとたび起これば甚大な被害をもたらす可能性があります。

いつ来るのか。何が起きるのか。どう備えるのか。私たちは、いま考えなければいけないと思います。



南海トラフ地震臨時情報とは？

南海トラフ地震に対応するため、国は「南海トラフ地震臨時情報」という新たな仕組みを2019年に立ち上げました。

「南海トラフ地震臨時情報」とは、南海トラフ地震の想定震源域で大きな地震や異常な現象を観測したときに、国民に注意あるいは警戒してもらうために気象庁から発表される重要な情報です。

● いつ、どんなときに発表されるか？

南海トラフ沿いでマグニチュード6.8以上の地震が発生した場合や、プレート境界面で異常が観測された場合、「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」が、発生から5分から30分後に発表されます。

上記情報発表後、ただちに検討会が開かれ、地震発生の可能性の大きさに応じて、
「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)」
「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」



可能性が小さい時には「調査終了」の3段階で、最短約2時間後に発表されます。

地震臨時情報が発表されたら？

● 「巨大地震注意」の情報が出された場合

1週間、地震発生に備えた生活をするのが呼びかけられます。その間に家具の固定や避難場所、避難経路、非常用持ち出し袋の確認などを行いましょう。

● 「巨大地震警戒」の場合

自治体が定めた事前避難対象地域の住民は1週間避難を続けることが呼びかけられ、津波が来ない安全な場所、避難所や親戚、友人宅へ避難することになります。

なお、四日市市では津浪浸水想定区域の避難行動要支援者を対象としています。

何もなかった場合、事前避難は1週間で解除されますが、「1週間たったからもう安全」という意味ではありません。自宅に戻っても引き続き地震に注意することが大切です。

「出典：HP「NHK 防災ニュース」から」

今から準備出来ること

南海トラフ地震に備えるために、事前にできる対策を確認しましょう。

「臨時情報」を生かしていくためには、家の耐震化など事前の対策が肝心です。日ごろから家具を固定していなければ、「臨時情報」が出て、あわてて家具の転倒防止金具を買いに行っても間に合いません。

十分な備蓄もしておく必要があります。避難先を確保するためには、避難先の人たちと日頃から親しくしておくことも大切です。

「日頃からの地震への備え」を引き続き実施してください。

いまから準備できること

- 建物の耐震化
- 家具の固定
- 避難先の確保

- 備蓄・非常持ち出し品の準備
- 安全スペースの確保
- 周囲の状況の確認
- 連絡手段の確認
- 家具の固定
- 防災訓練に参加しよう

「防災だより NO. 16」

発行日：令和6年10月

発行者：大矢知地区自主防災協議会

南海トラフ地震臨時情報が発表されたら？

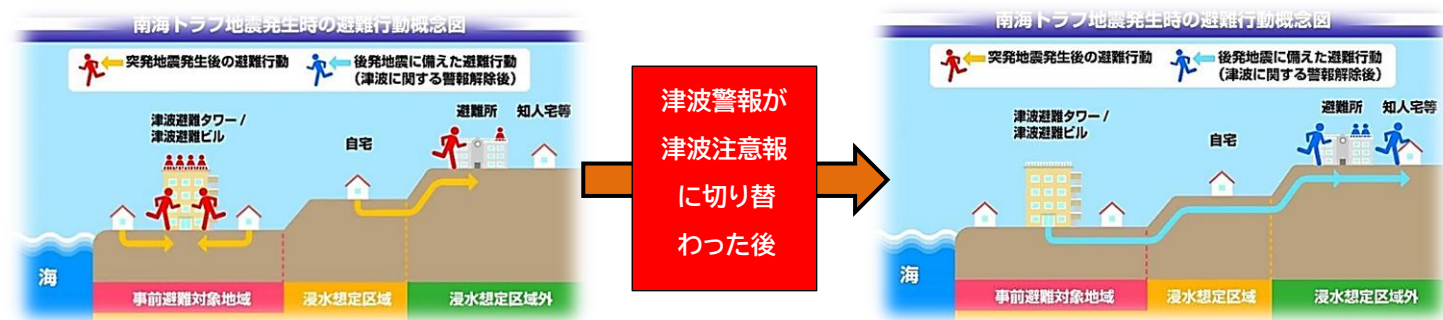
災害時要配慮者・一部沿岸地域の人	それ以外の人
①地震への備え再確認 ▼非常用持ち出し袋の確認 ▼家具の固定確認	②地震後すぐ避難できる準備 ▼避難経路の確認 ▼寝るときは枕元に靴を置く
事前避難(1週間) ▼安全な高台などにある 知人・友人の家に避難 ▼市区町村の避難所へ	

地震発生時の避難行動

突発的に地震が発生したら、最寄りの津波避難タワーや津波避難ビル又は避難所まで避難します。津波警報が発表された場合は、津波警報が解除されるまで避難を継続します。

津波警報が解除されるまでの間や解除された後に、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合は、お住まいの地域に応じた防災対応が必要になります。

事前避難対象地域の指定状況については、四日市市南海トラフ地震防災対策推進計画で確認してください。（HP「四日市市 防災情報」参照）



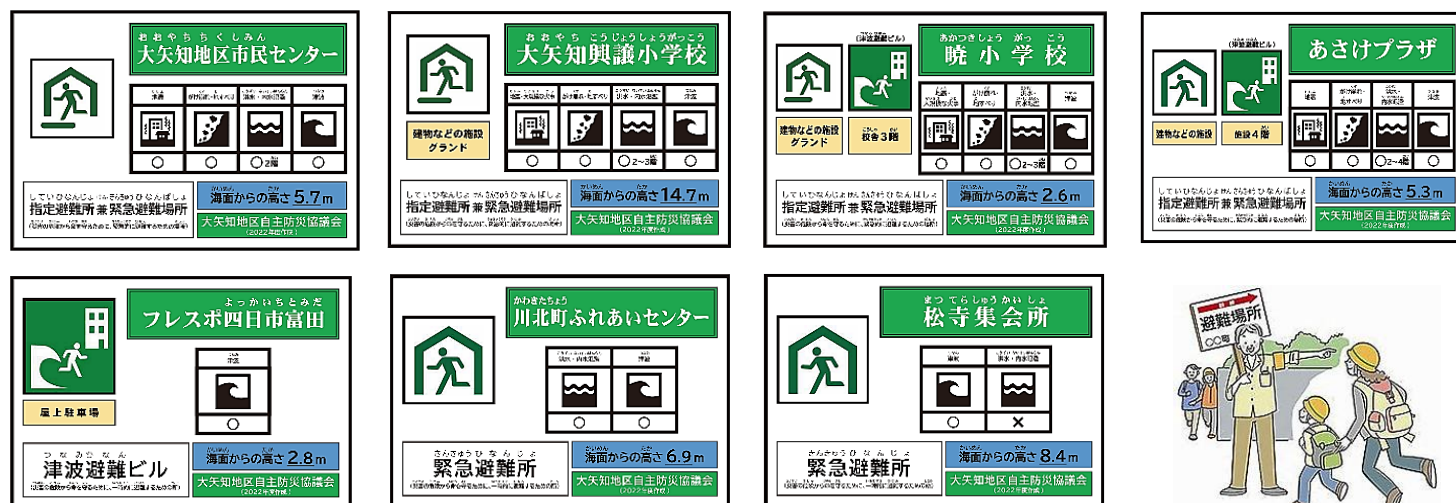
出典：HP「内閣府防災情報のページ」から

地震時の避難場所

まずは、自宅の近所にある公園や駐車場及び自治会で決めた一時避難場所などに一時的に避難し、しばらく様子を見て地震が収まるまで待ちます。

一時避難場所が危険で行けない場合は、学校の校庭など広い避難場所に避難し、余震や火事が収まるまで待ちます。なお、津波警報が発表された場合は高台や避難ビルに避難します。

【大矢知地区避難場所】



※ 避難場所については、「地震時の避難場所図」を参照してください。

「What we can do」～私たちにできること～

今年の夏は、地震・台風・そして猛暑と自然災害が続き、中でも「南海トラフ地震警戒情報」が発表されて不安になられた方が多かったのではと思います。「いよいよ大地震が来るのか」と…

地震や台風・豪雨のニュースを見るにつけ、被害が出た地域の人たちを気の毒に思い、自分の住む地域でなくてよかった「自分には関係ない」と思う方もお見えかと思います。しかし今回の警戒情報は、今この時に地震が発生したらと多くの方が想像し不安になったと思います。

「防災対策」とは 日常の生活が災害時でも送れる工夫

～災害により被災者となったら～

1 誰かが何とかしてくれる 2 緊急避難所に行けば助けてもらえる と思いませんか？
各自治会により違うかもしれませんが、最初から被災者全員に行き渡るように支援物資が準備されているところはほぼありません。市などから緊急支援物資が届くまでの間は、それぞれが自分たちの家庭の備蓄品で生活することとなります。地震や台風など防災意識の高まるこの時にそれぞれの家庭にあった「あったらいいな」を探して準備するようにしましょう。

高齢者、子どものいる家庭など必要となるものに違いが出てくるでしょう。参考となる資料が、四日市市の防災手帳などにも掲載されていますので一度ご覧いただけたらと思います。また、アウトドア用品としてキャンプ関連グッズをお持ちの方も災害時に有効に活用できるのではないのでしょうか。

普段の生活の中で 防災の日常化

《バッククッキング》

皆さんは、災害時にガスや水道、電気などのライフラインが使えなくなってしまうと、カセットコンロ鍋、水、耐熱性ポリ袋（高密度ポリエチレン：半透明）が準備できれば、衛生的に調理ができ簡単な食事を作ることができることをご存じでしょうか。

ポリ袋に材料をすべて入れ、空気を抜いて閉じたら後は、湯せんするだけでとても簡単で時短にもなる。

メリットは ① ひとつの鍋で複数の料理ができる
食材の下ごしらえさえすれば、同時にできます。
② 節水にもなりエコ
鍋に張った水は汚れないので何回も使えます。



ネットでは色々なメニューが紹介されています。普段の食事に取り入れてみてはいかがでしょうか。